

**会員事業所景況実態調査令和5年4月～令和5年6月分集計結果**  
**調査依頼数:570 回答数 72 回答割合:12.6%**

令和5年度1回目の会員事業所景況実態調査の調査結果について下記のとおり報告いたします。  
 調査結果については、今後の要望・提言活動や経営相談に活用してまいります。  
 ご回答いただいた事業所の皆様、お忙しいなか、ご協力ありがとうございました。

**★DI値とは**

各項目について、増加・好転(仕入単価:下落、従業員:不足)と回答した事業所の割合から減少・悪化(仕入単価:上昇、従業員:過剰)と回答した事業所の割合を減じた数値。  
 ゼロを基準とし、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

**【質問 A】 前年同時期と比較した4月～6月の景況**

	項目	増加・好転	不変	減少・悪化	合計	DI値	前回DI値	対比増減
全体	売上	24	29	20	73	5.5	▲ 13.9	19.4
	採算	13	35	24	72	▲ 15.3	▲ 22.2	6.9
	仕入単価	0	21	50	71	▲ 70.4	▲ 72.9	2.5
	従業員	28	43	1	72	37.5	28.6	8.9
	業況	14	39	19	72	▲ 6.9	▲ 23.6	16.7
	資金繰り	5	55	12	72	▲ 9.7	▲ 8.6	▲ 1.1
建設・建築業	売上	3	9	4	16	▲ 6.3	▲ 21.4	15.2
	採算	2	10	4	16	▲ 12.5	0.0	▲ 12.5
	仕入単価		4	12	16	▲ 75.0	▲ 78.6	3.6
	従業員	7	9		16	43.8	28.6	15.2
	業況	3	11	2	16	6.3	▲ 21.4	27.7
	資金繰り	2	13	1	16	6.3	▲ 14.3	20.6
製造業	売上	5	3	4	12	8.3	▲ 33.3	41.6
	採算	1	5	6	12	▲ 41.7	▲ 50.0	8.3
	仕入単価		2	9	11	▲ 81.8	▲ 83.3	1.5
	従業員	3	8	1	12	16.7	8.3	8.4
	業況	3	5	4	12	▲ 8.3	▲ 50.0	41.7
	資金繰り	1	8	3	12	▲ 16.7	▲ 16.7	0.0
卸・小売業	売上	3	4	2	9	11.1	▲ 10.0	21.1
	採算	2	5	1	8	12.5	▲ 10.0	22.5
	仕入単価		3	5	8	▲ 62.5	▲ 88.9	26.4
	従業員	2	6		8	25.0	22.2	2.8
	業況	1	3	4	8	▲ 37.5	▲ 20.0	▲ 17.5
	資金繰り		6	2	8	▲ 25.0	▲ 11.1	▲ 13.9
飲食・サービス業	売上	7	7	2	16	31.3	10.5	20.8
	採算	4	11	1	16	18.8	▲ 10.5	29.3
	仕入単価		7	9	16	▲ 56.3	▲ 57.9	1.7
	従業員	7	9		16	43.8	47.4	▲ 3.7
	業況	4	11	1	16	18.8	▲ 5.3	24.1
	資金繰り	1	14	1	16	0.0	0.0	0.0
不動産・その他	売上	6	6	8	20	▲ 10.0	▲ 23.5	13.5
	採算	4	4	12	20	▲ 40.0	▲ 41.2	1.2
	仕入単価		5	15	20	▲ 75.0	▲ 68.9	▲ 6.1
	従業員	9	11		20	45.0	37.5	7.5
	業況	3	9	8	20	▲ 25.0	▲ 29.4	4.4
	資金繰り	1	14	5	20	▲ 20.0	▲ 6.3	▲ 13.7

**(全体)**

従業員、資金繰り以外は前回より改善しており、特に売上はプラスに転じている。しかしながら、仕入単価は依然として▲70ポイント以上とマイナスポイントが高い状態が続いている。従業員は前回よりも人手不足感が強まっている。

**(建設・建築業)**

採算、従業員以外は前回より改善しており、特に業況、資金繰りは20ポイント以上改善しDI値もプラスに転じている。仕入単価は依然としてDI値▲70ポイント以上とマイナスポイントが高い状態が続いている。従業員では人手不足感が強まりDI値も40ポイント以上まで悪化している。

**(製造業)**

従業員以外は前回よりも改善しており、特に売上、業況は40ポイント以上改善し、売上はDI値がプラスに転じている。仕入単価は依然としてDI値▲80ポイント以上とマイナスポイントが高い状態が続いている。また、採算も依然としてDI値▲40ポイント以上とマイナスポイントが高い状態が続いている。

**(卸・小売業)**

従業員、業況、資金繰り以外は前回よりもDI値20ポイント以上と大幅に改善しており、売上、採算はプラスに転じている。仕入単価は依然としてDI値▲60ポイント以上とマイナスポイントが高い状態が続いている。業況、資金繰りは前回よりDI値10ポイント以上悪化しており、業況はDI値▲40ポイント近くまで悪化している。

**(飲食・サービス業)**

資金繰り以外は前回より改善している。特に売上、業況では20ポイント以上、採算は30ポイント近く回復し、DI値もプラスに転じている。仕入単価は依然としてDI値▲50ポイント以上とマイナスポイントが高い状態が続いている。従業員は人手不足感が若干弱まっているが、依然としてDI値が40ポイント以上のままである。

**(不動産・その他)**

売上、採算、業況は前回より改善しており、特に売上は10ポイント以上と大幅に改善している。採算は依然としてDI値が▲40ポイント以上、仕入単価は若干悪化し、DI値も▲70ポイント以上とマイナスポイントが高い状態が続いている。資金繰りは10ポイント以上悪化している。従業員は人手不足感が若干強まり、DI値も40ポイント以上まで悪化している。

**【質問 A】 6月と比較した7月～9月の先行き見通しについて**

	項目	増加・好転	不変	減少・悪化	合計	DI値	前回DI値	対比増減
全体	売上	17	40	16	73	1.4	▲16.9	18.3
	採算	7	39	26	72	▲26.4	▲25.4	▲1.0
	仕入単価	0	26	45	71	▲63.4	▲68.1	4.7
	従業員	30	40	2	72	38.9	35.7	3.2
	業況	11	38	23	72	▲16.7	▲20.0	3.3
	資金繰り	3	53	15	71	▲16.9	▲8.6	▲8.3
建設・建築業	売上	4	11	1	16	18.8	7.1	11.7
	採算	2	12	2	16	0.0	▲7.1	7.1
	仕入単価		6	10	16	▲62.5	▲85.7	23.2
	従業員	7	9		16	43.8	64.3	▲20.6
	業況	4	11	1	16	18.8	▲14.3	33.1
	資金繰り	2	13	1	16	6.3	▲14.3	20.6
製造業	売上	5	3	4	12	8.3	▲25.0	33.3
	採算		4	8	12	▲66.7	▲50.0	▲16.7
	仕入単価		5	6	11	▲54.5	▲75.0	20.5
	従業員	3	8	1	12	16.7	0.0	16.7
	業況	2	3	7	12	▲41.7	▲54.5	12.8
	資金繰り		8	4	12	▲33.3	▲25.0	▲8.3
卸・小売業	売上	1	6	2	9	▲11.1	▲22.2	11.1
	採算	1	4	3	8	▲25.0	▲30.0	5.0
	仕入単価		4	4	8	▲50.0	▲66.7	16.7
	従業員	2	5	1	8	12.5	11.1	1.4
	業況	1	3	4	8	▲37.5	▲20.0	▲17.5
	資金繰り		4	3	7	▲42.9	▲11.1	▲31.8
飲食・サービス業	売上	2	12	2	16	0.0	▲15.8	15.8
	採算	1	13	2	16	▲6.3	▲10.5	4.3
	仕入単価		7	9	16	▲56.3	▲66.7	10.5
	従業員	7	9		16	43.8	11.1	32.7
	業況	1	12	3	16	▲12.5	▲20.0	7.5
	資金繰り		15	1	16	▲6.3	▲11.1	4.9
不動産・その他	売上	5	8	7	20	▲10.0	29.4	▲39.4
	採算	3	6	11	20	▲40.0	▲37.5	▲2.5
	仕入単価		4	16	20	▲80.0	▲66.7	▲13.3
	従業員	11	9		20	55.0	43.8	11.2
	業況	3	9	8	20	▲25.0	▲18.8	▲6.2
	資金繰り	1	13	6	20	▲25.0	▲12.5	▲12.5

**(全体)**

売上、仕入単価、業況は前回より改善する見通しとなり、特に売上は20ポイント近く改善しプラスに転じる見通しとなる。仕入単価は依然としてDI値▲60ポイント以上とマイナスポイントが高い状態が続く見通しとなる。一方、採算、従業員、資金繰りは若干であるが悪化する見通しとなる。従業員はDI値30ポイント以上と依然として人手不足感が強くなる見通しとなる。

**(建設・建築業)**

全項目において前回より改善する見通しとなり、特に業況が30ポイント以上、仕入単価、従業員、資金繰りが20ポイント以上と大幅に改善する見通しとなる。売上、業況、資金繰りのDI値はプラスに転じる見通しとなる。一方仕入単価は依然としてDI値▲60ポイント以上とマイナスポイントが高い状態が続く見通しとなる。

**(製造業)**

売上、仕入単価、業況は改善する見通しとなり、特に売上は30ポイント以上改善しDI値もプラスに転じ、仕入単価は20ポイント以上改善する見通しとなるが、依然としてDI値は▲50ポイント以上とマイナスポイントが高い状態が続く見通しとなる。一方、採算、従業員では10ポイント以上悪化し、特に採算はDI値▲60ポイント以上とマイナスポイントが高くなる見通しとなる。

**(卸・小売業)**

売上、採算、仕入単価は前回より改善する見通しとなるが、仕入単価は依然としてDI値▲50ポイント以上とマイナスポイントが高い状態が続く見通しとなる。一方、業況は10ポイント以上、資金繰りは30ポイント以上と大幅に悪化する見通しとなり、DI値も業況が▲30ポイント以上、資金繰りは▲40ポイント以上とマイナスポイントが高くなる見通しとなる。

**(飲食・サービス業)**

従業員以外は前回より改善する見通しとなり、売上はDI値がプラスマイナスゼロまで改善する見通しとなる。仕入単価は依然としてDI値が▲50ポイント以上とマイナスポイントが高い状態が続く見通しとなる。従業員では30ポイント以上悪化しDI値も40ポイント以上となり、人手不足感が大幅に強まる見通しとなる。

**(不動産・その他)**

全項目において前回より悪化する見通しとなり、特に売上は40ポイント近くと大幅に悪化し、DI値がマイナスに転じる見通しとなる。また、DI値は採算が▲40ポイント以上、仕入単価が▲80ポイント以上とマイナスポイントが高くなる見通しとなる。従業員では、DI値が50ポイント以上と高くなり人手不足感が大幅に強まる見通しとなる。